

No.151

公民館だより

平成26年6月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

在職十年を振り返る(二)

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

◎平成十五年(二〇〇三)年

郷土芸能祭に「由良練り込み太鼓」が出演、大好評を得ています。

四方寿朗氏が、写真集「丹後由良」を発行され、地区内全戸に配布されています。

新型肺炎(SARS)に感染した外国人観光客が宮津を観光した大きな問題になりました。

人権学習会では西野啓子さんに国際協力事業団J A I C A(ジャイカ)の一員としてタイ国に赴任された体験談を講演していただきました。

平成十四年から始まった子供囲碁教室は二年目を迎え十名の

生徒が受講しています。

この年から元由良小学校校長松本師正先生・四方寿朗先生と由良神社宮司今城力雄氏たちが「丹後由良の船絵馬」の調査を開始されています。

平成十四年度から学校完全週5日制に伴い、地区内の子供たちに体験活動の機会を作りより充実した経験をつませるため「京鹿の子紋」の体験学習を実施しました。

◎平成十六(二〇〇四)年

選任第三代自治連合会長として足立 明氏が就任。

台風23号が襲来し、地区内では港地区の一部で床下浸水の被

害、奈具神社はご神木が倒れ、中路神社でも被害を受けています。宮津では、大手川・如願寺川の氾濫で戦後最大級の被害を被りました。

また、由良川では大型観光バスが乗客を乗せたまま水没、自衛隊が出動、ケガ人はありませんでしたが救助に多くの時間と労力を費やしました。

宮津初のコンビニ「ミニストップ」が脇地区に開業しています。

またこの年には、新潟中越地震が発生しています。

丹波町で発生した「鳥インフルエンザ」に宮津市でも消毒など防疫対策をとっています。

◎平成十七年(二〇〇五)年

昭和三十三年(一九五八)年に開業され、私たち地域の医療機関として活躍された四方医院がこの年廃院されました。

奈具海岸道路の愛称が「安寿ロマン海道」に決定。

第18回国勢調査による由良の人口は1272人。宮津市全体では2万1512人。

J R福知山線尼崎市内でスピードオーバーが原因で脱線しマシヨンに激突、107人死亡550人が負傷という大惨事が発生しています。

耐震マシヨン設計偽装問題が発覚し、大きな話題になったのもこの年です。

◎平成十八(二〇〇六)年

この年から公民館主催グラウンドゴルフ大会が開催され、第一回はナイターで実施しています。

由良地区の自治会、歴史をさぐる会、公民館の代表が、庄内由良を訪問しています。

宮津市徳田市長が退任、井上正嗣新市長が就任されました。

◎平成十九(二〇〇七)年

由良の里センターが農林水産課から宮津市教育委員会の管理に移行し、由良地区公民館となりました。

選任第四代自治連合会長として野村孝行氏が就任。

宮津市のゴミ処理が有料化になりました。(以下次号)

行事報告

主事 磯田 充亮

◎三月一日(土)

生涯学習講座 (歴史講座)

今年七月に宮津市で、北前船に関する全国大会が開催されることになり、それに向けて江戸時代から明治二十年頃にかけて、北前船に乗って全国に商いをしていた由良の船頭達について、由良地区民に関心をもってもらうため、宮津市教育委員会の河森一浩先生をお迎えし歴史講座を開催しました。

内容は昨年ユネスコ「無形文化世界遺産」に登録された「日本の和食」を支えた北前船の話等がありました。その中で由良に関する主な内容について報告します。

① 丹後における北前船の研究は、真下八雄先生等により丹後海運業について多く発表されたが、由良に関する資料は

少ない。

② 江戸時代、大阪は天下の台所と言われ商いが盛んであった。大阪から江戸を往来する船は「菱垣・樽廻船と言われ、大阪から瀬戸内海を通って下関から日本海を北上し、北海道へ向かう「西廻り航路」を行く船を「北前船」と言った。それに対して「東廻り航路」として江戸から北海道に向かう航路があったが、銚子沖は潮流が速く、潮に乗ればアメリカまで行くと言われ敬遠された。

③ 船は物を運ぶ海運業をする者もあつたが、「北前船」の船頭は各地の特産品を安く買い、必要としている港で高く売り、商売をしていた。今で言う総合商社の様な商売をしていた。「北前船」を「買積船」と呼ぶことが多い。

④ 北前船は冬海が荒れるので春、大阪を出発し北海道に行き、秋には帰って来た。大阪に船を止めて各地へ帰っていた。由良の船頭も同じことをしていた。

一回の航海で今のお金に換算して数億円の利益を出していた。

⑤ 船は「板子一枚下は地獄」と言われ危険と隣りあわせた商売で、そのため船の航海の安全祈願と航海の無事帰還を感謝し、各地の神社に船絵馬が奉納されている。由良は「金毘羅神社」「玉司稻荷神社」「照国稻荷神社」に多くの船絵馬が奉納されている。今は宮津の「歴史の館」に保存されている。一番の神社は四国香川県金毘羅さんで、必ずといって立ち寄って安全祈願をしたようだ。

⑥ 丹後の廻船について調べると圧倒的に岩滝、特に小室(山家屋)さんが船数や積石数が多く、次いで宮津、由良、神崎と続く。資料から廻船の

ベスト10を見ると5番目に由良の船名「栄福丸」「磯部丸」船主磯田四郎左衛門(米屋)の名が出てくる。由良は主に「山家屋」「元結屋」等の船頭として乗り込むことが多いと言われているが、後になって由良にも多くのオーナー(船主)がいたことがわかってきた。

石見国浜田の外ノ浦(島根県)にある船宿「清水屋」に「諸国御客船帳」があり丹後の廻船が入港した船名数を見ると由良が93隻あり次いで間人神崎、岩滝と続いている。入港延べ船数にあつても由良は149隻以上で神崎に次いで多い。

⑦ 真下さんの資料によると、加藤長助古文書に、加藤さんは山家屋、元結屋等の船頭(現場責任者)として乗船、多くの帳簿や衣類を残している。又、幸福丸に乗った時の航海記録があり、毎日24時間、寄港地の事や当時の気候等が詳細に記録されている。

⑧ 加藤長助さんの航海日誌に

大阪から北海道に行った記録があり、特に重要な寄港地である山形県の酒田に立寄り、米沢米、庄内米を江戸幕府に年貢米として買い入れ、大阪や江戸に運び納めた記録がある。

⑨ 酒田史に天明7年(1787)から明治2年の間に丹後の船が107隻寄港した記録があり、酒田の避難港となっている飛鳥に13軒の船問屋があり、由良の船33隻が寄港した記録がある。

⑩ 鶴岡市由良とは昔、丹後由良から蘇我の馬子に追われ船出し鶴岡由良に逃れ、出羽三山を開祖した「蜂子皇子」との関係から由良の船が多く寄港している。

⑪ 金毘羅さんの対岸にある下津井港(岡山県)に宮津の船が北海道から「にしん」を肥料として運んだ記録があり、由良に関する資料もある。明治31年から35年の資料の中に、明治32年10月に幸福丸(船主糸井勘助)の船長加藤長助さ

んが寄港した記録があり(他に4点ある)、下津井には加藤長助さんの話がされている。

「長助さんはなかなかの粋人で舞を好んだ。長助さんは寄港するたびに舞を学んで帰った。彼は羽二重の禪をしめていたほど通人であった」と今でもご当地で言い伝えられているとのこと。このようにご当地の伝記や民謡が北前船を通じて広まっていったことがわかる。

⑫ 福井市内の足羽山(あさはやま)から産出された「笏谷石」は江戸時代北前船が寄港した、江差、酒田、浜田等日本海の港町に多く残っている。由良にも船のバラスト石として、あるいは平水鉢、灯籠、墓石等として運ばれている。以上、一時間の講座がありました。

(北前船に船頭として従事した人達の名簿は、3年前由良地区公民館が発刊した『由良の史跡』に記載しています。参考にして下さい。)

◎五月三日(土) 憲法記念日

由良岳登山

例年は四月二十九日「昭和の日」に開催していますが、当日天候不順のためやむなく延期とし、予備日として予定していた五月三日(土)に実施しました。

朝、由良地区民等八〇歳代の方から三歳位の幼児ら老若男女約八十名の方が「はまの子グラウンド」に集合、公民館長が登山時の注意等のあいさつ後ラジ

オ体操を実施、子供達におやつを渡し登山を開始しました。同時刻関東方面から大型バスで到着した「ハイキング同好会」の一行四十七名が見え、合流し由良岳山頂を目指しました。

山道は毎年見られる三つ葉つじ、山ざくら等の花は散り、新緑一色に囲まれ、尾根には春を惜しむようにスマレが咲いていました。そんな中、大勢登ってくれた由良地区の小学生が「ヤッホー」「〇〇ちゃん」等大声で呼び合い山々に響いていました。

朝、集合時は比較的穏やかな

天候でしたが、十一時ごろ空は雲に覆われ強い北風が吹き荒れ天候が急変し、三年前あられに遭った時のような寒さになり、足早に下山する人がいました。

山頂では防寒をして食事する家族や木陰で風をよけお弁当を広げている人達もいました。

中には山頂に落ちていた小さなゴミを拾い集めている青年を見かけました。

又、別ルート舞鶴漆原、大川橋方面から登り下山する人達にも逢いました。

参加者は昨年より七十六名少ない一三七名でした。

今年四月二十五日(金)に共催団体の由良自治連合会、由良観光組合、その他有志の方十二名に登山道の倒木除去、両山頂の草刈りをお世話になりました。如意寺からは登山用杖十数本の贈呈がありました。

皆様ありがとうございました。

教師として今思うこと

栗田中学校長 細見晋一

教師として初めて栗田と由良地域の学校に赴任することになりました。栗田中学校で大事にされてきた教育が、まだどのようなものか十分わからない状況ですが、保護者の皆様や地域の皆様から様々なことを教えていただき、早く学校に慣れ、本校教育のさらなる発展を目指して誠意を持って務めて参る所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回由良公民館だよりの原稿執筆の依頼を受けましたので、今まで私が教師として大事にしてきたことを、読んだ本の内容を交えながら書かせていただきましたので、その意図を理解して目を通していただけたら幸甚に存じます。

私の教職経験三十数年で感じ

るのは、私が教師になってまだほんの数年の若いとき、先輩教師がおっしゃっていたことを今になってその通りだなあと感じることがたくさんあります。

その内の一つ目は、生徒だけを見て教えるのではなく、生徒には、保護者がおられ、保護者も生徒もそこで生活している地域があるということ。生徒をよく見て、そして保護者や地域の皆様の学校への期待を把握し、教育を取り巻く地域社会の環境や生活状況を十分掴んで子どもの教育に当たるといことです。

これに関わって近年念頭に置いていることは、教育は学校だけでは成り立つものではなく、家庭や地域の皆様のご協力を賜り、十分な連携をとりながら行

われるべきであるものということとです。子どもが心身ともに健全な成長をとげ、人や社会とながりに、共に生きる心をはぐくむためには、子ども一人ひとりに対して、学校はもとより、家庭、地域社会、行政が、それぞれの役割と責任を果たしながら協働し、社会総がかりで取り組むことが大切であるということ

です。

二つ目は、『教育は国家百年の大計』であるということ。つまり、中学校三年間の中で担任できるのはせいぜいほんの一年か二年、そんな短い年月で生徒に結果を求めるとは、長い目で見て、進路先や社会人になつてその生徒がどのように一般社会に貢献ができ、活躍して幸せになれるかを考えなければならぬ。結果を焦ってはいけません。結果を焦ってはいけません。結果を焦ってはいけません。結果を焦ってはいけません。

最後に三つ目として、『教育は人なり』です。この言葉が示す

いて能力が発揮できるようにしてやるのが肝要であるということ。最近心掛けていることは、生徒が力を発揮できるように自信を持たせることに重点を置くことです。つまり、長所を伸ばすことを第一に考え、そして、言わば自信というエンジンで進んでいき弱点をカバーできるようにする。自信を持たせるには、よいところや頑張ったところなどを『褒める』ことです。他人と比べるのではなく、その子個人を見てよいところを褒めるのです。悪いところやダメなところが目立ってしまいますが、まずよいところをたくさん褒める。そして、悪いところはぐっと我慢して一つか二つに絞って、短時間で指し、そのことが克服できるように支援をする方がいいと思います。

最後に三つ目として、『教育は人なり』です。この言葉が示す

ように、教育は教師の力量に左右されます。勇気を持って言えば、教育は教師力によって決まります。本来公教育は、差があつてはならないものですが、そうとも言い切れない現実があります。保護者の皆様が、誰が担任になるかで一喜一憂されたり、部活動にかける中学生が、優れた指導者がいる高校を受検したがるのはそのためなのではないかと思ひます。このことは否定できない事実であり、私たちは謙虚に受け取らなければなりません。

教師にはそれぞれ個性があります。性格も違えば得意分野も違います。経験や指導方法だって同じではありません。ベテラン教師だからできることもあれば、若い教師だからできることでもあります。大切なのは、①一人ひとりの子どもへの確かな愛情があること、②授業（や部活動等）へのひたむきな情熱があること、③教師としての誇りや

使命感があること、これにつきるのではないかと思ひます。それがあれば新卒教師であろうと信頼されるでしょうし、それがなければベテラン教師であろうと信頼されないのです。

今日、教師に向けられる目はますます厳しくなっています。これからは、これまでの横並びの教師ではなく、一人ひとりの個性や専門性を生かした魅力ある教師が求められます。それと同時に、教師集団が組織として機能し、学校力の向上を図ることも求められています。

私は今現在栗田中学校の校長として、まず自身を振り返り、今までの自分を栗田中学校がさらに発展するために何に力を注がなければならぬのか、そのために今自分に足りないものは何か、今もこれからも研鑽をさらに積み、『自分が変われば学校が変わる』という信念を持ち、保護者の皆様や地域の皆様に信頼される学校に、教職員が

若葉の鮮やかな季節となつてまいりました。この度、栗田中学校PTA会長と体育後援会副会長を務めさせていた、たくことになりました。大きな責任のある役に不安もございいますが、子供達、先生方、また、地域の皆様と共に成長する機会と捉え、微力ながら精一杯努めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

就任のご挨拶

栗田中学校PTA会長 濱野真一

一丸となり取り組んで参りたいと思ひますので、どうかご理解とご支援をこれまで以上に賜り
.....
ますようよろしくお願ひ申し上げます。 げ、ペンを置きたいと思ひます。

り、スクールバスで栗田小学校に通い始めました。子供たちは不安と期待を持ちながらも元気に一年が経ち、統合後の初めての卒業生が栗田中学校に入學してきました。入学式に参列させていただきましたが、子供たちは元気に返事をして力強い姿を見せてくれました。新たな生徒が新たな希望と目標を持ち中学生になったことを喜びたいと思ひます。

さて、本年度の栗田中学校は一年生十六名（由良二名、栗田十四名）、二年生二十八名（由良七名、栗田二十一名）、三年生二十名（由良六名、栗田十四名）

昨年是由良小学校が統合とな

総生徒数六十四名でスタートとなりまして。クラブ活動では、男子は野球とソフトテニス、女子はバレーボールとソフトテニスで頑張っています。先日も新入生は正式にクラブに入部先輩の指導のもと元気に活動しています。また、クラブ以外の陸上活動や生徒会活動など、一人何役もこなし、他校に負けない活気のある学校活動をしています。

特に少数だからこそできる、学年を超えた一体感は他校にない特徴ではないかと思えます。この良い状況を維持し、更に活躍の場を広げようために、PTA活動は重要な役割を持っていると思えます。

年々生徒数は減少し、PTA会員数も減少しており、生徒や保護者、先生などの学校関係者だけではPTA活動が十分でないような状況となっております。そのような中、地域の皆様のご協力には非常に感謝して

おります。

春、秋の資源回収では、お声掛けをされると沢山のものを出していただき、なかには中学生のために置いておいたと言っています。ただける方もいらっしゃいます。大変ありがたいことで感謝致します。しかし、集める側の人数が少なくなってきたり、そんな様子を察してか、回収にまでお手伝いしていただき、由良の里センターに持ってきて頂ける方もいらっしゃいます。大変困難かと思えます。また、体育後援会賛助会員にも温かいご支援を頂いております。このような地域の皆様の支えは非常に心強く、数が減ってきた我々のPTA活動を推進するエネルギーとなります。

残念ながら由良小学校はなくなりました。由良地区の皆様が子供たちを支えていくという心はずっと続いていくものと確信します。このような地域の皆様の思いを子供たちが

感じて、また地域に恩返しができるような活躍を見せてくれると思えます。

その活躍をお見せできる場の一つとして、本年も体育祭、文化祭を予定しております。

体育祭は九月六日、文化祭は十一月三日です。

栗田中学校で開催いたしますので、由良地区の皆様にはご不便をお掛けし恐縮ではありますが、是非、観覧に来ていただき声援を送っていただけますようお願いいたします。栗田の子供

たちと共に地域の子供として、私達の地域が盛り上がる場となりますようお迎えしたいと思います。

最後にになりましたが、私もまだまだ経験不足での大役となります。皆様のご指導、ご鞭撻を頂きながら役割を果たしていきたいと思っております。

今後とも栗田中学校PTA活動への、皆様の温かいご理解とご協力をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

由良の子供たち

栗田小学校PTA副会長 岡 本 重 幸

風薫る初夏の爽やかな季節となりました。

由良地区の皆様方におかれましては、日頃より児童の登下校時の交通安全をはじめ、温かく見守っていただき誠にありがと

うございます。また、PTA活動に対しましてもご支援ご協力を賜りまして、本当に心より感謝申し上げます。

昨年春には「由良小学校閉校式「お別れ会」と、大きな式典

がありました。私には本当に無くなってしまう実感が湧いてきませんでした。そのような中、由良の児童がマイクロバスで登下校する新生栗田小学校はスタートしました。

少人数の由良小時代も良かったです。この一年間の子供達をみていると、たくさんの方々に囲まれ、競争心や自立心が芽生えるなど活気にあふれており、統合の「スケールメリット」を実感いたしました。

今、現実に我が学び舎由良小学校は新しい用途となるべく解体工事が始まり、その姿かたちも無くなり、寂しく感慨深いものがあります。由良地区の皆様、この子供達の笑顔を見ていると、有意義で間違っていないなかつたと感じています。

学校は大きく変化いたしました。海・山・川と自然の息吹に囲まれ、人とのふれあいを感ずる「由良」は今も昔と変わる

ことなく子供達を包み込みます。そんな故郷「由良」を大人になっても誇りに思っています。

最後になりましたが、平日の昼間は子供の声が聞こえず寂しくなりましたが、放課後や休日には変わらず元気な子供達がいま。地域の皆様方には今まで同様、子供達を時には厳しく時には優しく見守ってやってください。そして、声を掛けてやってください。

就任のごあいさつ

由良子供会連絡協議会 会長 川崎 直樹

向夏の候、由良地区の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より子供会活動にご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、由良子供会連絡協議会会長を務めさせていただき、こととなりました。会員及び地域の皆様からのご支援を賜りながら、職務を果たしたいと思っております。ご協力の程、よろしくお願い致します。

さて、由良地区の園児・児童が栗田幼稚園・小学校へ通園・通学するようになり、一年が経ちました。バス通学や新しい環境にも慣れ、子供達も気が緩む頃かと思われま。

これまでと同様に家庭と地域が手を携え、安心安全な環境を

目指すことはもちろんですが、子供達一人一人が犯罪や事故などから身を守る知識を身につけることも必要かと考えます。家庭での指導に加え、地域との関わりの中、そのような知恵や技術をご教授いただければ幸いです。

また当協議会では、五月の親子遠足をはじめ、由良地区で開催される諸行事に参加させていただきます。各地区子供会による年間行事と共に、地域の皆様には大変お世話になります。ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、今後も子供達の成長を温かく見守り続けていただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



丹後隠れ里―凡海【おおしまま】

由良ノ庄

―由良川街道―

京都丹後学会 京都丹後ビーチ 山椒太夫外伝 丹後の
古社・古寺巡礼 由良川街道 京都丹波越え 大和建国

元丹後ふるさと観光大使
京都丹後学会 代表 坂本与一郎

謎の山椒太夫(Ⅰ)

「大江山麓の山椒太夫屋敷跡があるのは現・京都府宮津市由良地区である。由良川が丹波山地の水を集めて流れ、日本海にそそぐのは宮津と舞鶴のあいだの栗田【くんだ】の手前の入江だ。このあたり岩場が多く、浜に白洲がなく、洗濯板のような岩盤が一日荒波に洗われている。由良千軒などと説経節がいった、北前船が寄る栄華は偲ぶべくもない。淋しい季節風うらにしが吹く海岸である。由良には由良岳という山がある。裾は畑の台地で、由良川岸の両側には谷が

あり、谷の奥には村落がある。二、三十戸もあれば大村である。

漁業をする者が、副業に山の台地に蜜柑や野菜を栽培している。老いも若きも、山椒太夫が使役した安寿や厨子王の話を信じていて、台地の森蔭へとゆくと、太夫の首挽きの松だの残しているし、太夫の墓もあって、そのわきに、「六十六部供養塔」と彫字した塔がある。六十六部とは諸国を放浪する語りべだと辞書にもあるから、説経語りでもあったか。首挽きの松は意外に太くて、枝も張っている。そのほかに桜も植林され、若木であるところを見ると、いまもこの地

に、屋敷跡を守ろうとする人が住むことを証すのである。私はついでに厨子王丸の塚と安寿の塚とされるものがあつたので、標石の肌を撫でてきた。なかやま谷にゆくと、厨子王がかくまわれた曇猛律師のいた真言宗国分寺跡もある。このあたり、説経節の古跡ばかりである。

私は道の両側にある山椿がちようど五弁の花をつぼませたり、ひらいたりしているのを眺めて歩いた。これが最初ではなかった。じつは何度も通りがかるたびにこの由良岳台地へは入りこんでいたのであつた。閑雅な村であつた。人のいない蜜柑畑の蜜柑が鈴なりだった日もあるし、実が一つもない混んだ葉ばかりの年【とし】もあつた。安寿も喰つただろう山の幸である。それらの実【み】が、陽をあびているのは、陰々滅々の説経節世界を温もらせる感じもした。

大夫の伝説は森鷗外の小説『山椒大夫』から広く世に知られるようになったがその素材は一般に江戸中期の説経節「さんせう太夫」正本類であろうといわれ、実際に両者の間はかなり似ているところも多い。」

しかし、この丹後の由良にはこれらとはべつに古くから「山庄略由来」と名付けてまとめられたものがつたわり、版木本も保存されているそうだ。このことも、この辺りを中心として由良川の下流に、また川上一帯にわたつて三庄太夫伝説に関わる遺跡が多く残されているのは関わりが深いことを物語っている。「三庄太夫の屋敷跡」というのもこの辺りにあつたとつたえられている。いまはこの附近の小山に点在する多くの古墳群を残すのみであるが、その規模から察して相当の勢力をもつていた豪族の家があつたことがうかがわれる。

また、この向いの川の中の島

も、今は河川工事によってその大部分がけずりとられ、往時を偲ぶすべもないが、城島といって太夫の馬場及び作業場があったところで、向うの小高い山は奴婢たちの見張り場所であったと伝えられていると、「歴史をさぐる会」と観光協会は用心ぶかく実証の跡をたどっている。」
 (水上勉著「説経節を読む」新潮社刊より)

もし、日本の歴史のなかで悪党の番付表があるとしたら山椒太夫は、かなり上位ランキングされるだろう。そして、丹波からは酒吞童子が上位に入ってくる。

この由良川街道沿いの、全国的に有名な二人の悪党は、一人は山に棲み、一人は海辺に棲むことになったが、何処から来たか、両者とも諸説あって定かではない。謎である。

「今来の神々 仏教と都市文化

に対する反逆が酒吞童子の本質である。都の貴族の女を拉致してきては血を絞り、肉を喰う、まさに絞血城の鬼と同じく都市的開明さを侵犯する原始未開の野蛮と暗黒を象徴する存在である。こういう酒吞童子のような鬼の棲息しているのが丹波であり、丹波であって、京都の西洛外にひろがる、都市的なものと全く異質な、不気味さと混沌をあらわしている世界である。

さんせう太夫のようなことなく不透明な冷酷さと食欲さが同居している人物を造形できたのも、丹後という歴史的な空間のもつ条件が大きく作用しているからだといえそう。

一説に、さんせう太夫と酒吞童子の同一性を説く論旨がある。これは散所の支配者としての像を山と海浜に分極化した結果、二つの形象となったというもので傾聴に価するが、都から見た異質な不気味さと混沌をあらわす丹後、丹波という土地の空間

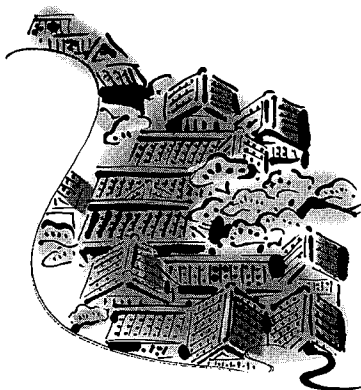
伝承こそが、山と海浜に分けて二つの巨大な悪を創造する契機となったものであろう。」(岩崎武夫著「続さんせう太夫考」平凡社選書23刊より)(京都丹後学講座「丹後の古社・古寺巡礼―身代り信仰―丹後由良如意寺」、「丹後の古社・古寺巡礼―元伊勢内宮皇大神社」参照)

民俗学の祖ともいえる柳田国男にも「山椒太夫考」がある。「サンショは散所、算所、産所などとも書き、年貢を納めなくてよい土地のことで、そこに住んでいた山伏、陰陽師【おんようし】などの卜占【ぼくせん】や祈禱【きとう】するかたわら祝言【のりと】を唱え歌舞を奏して生活していた連衆が長者物語を語ってまわるうちにこの名が入りこんだのであろうとみている。

柳田の『山椒太夫考』は、『あたかも浄瑠璃【じょうるり】の一種を半太夫または義太夫とい

うと同じく、この長者の話を語り始めた者の通称であった」と結んでいる。
 ところで、平安時代から中世にかけて、この散所民を支配したのが長者で、これを太夫【たゆう】と称したものである。」(牧田茂日本民俗学会理事稿「丹波・丹後の伝説解説」世界文化社刊より)

―次号へつづく―



川柳

大森 美智子

何もかも許そう空が青いから

行列のまん中辺にある人氣

沖のフェリー人間模様つれて来る

思考ゼロ開放された其の日から

ペレ先が乾いて思いが告げられぬ

坂本 妙子

マイペース余生に悔いるものがない

ジキルとハイド持ち合わせてる紙一重

嘯み合わぬ主張へ風が突き刺さる

輪の中で肌合いの差を知る孤独

狂いたい時もあったね海は風

短歌

坂本 妙子

五月晴れの空に向って手を延ばす

生きる嬉なび味はいながら乍ら

朝夕に南無釈迦牟尼仏唱えつつ

亡夫が遠くなるを感じる

薄暗き肉陣に御座し微笑みて

涅槃は千千の心癒さぬ

枡本 清

大雨の特別警報川筋襲い

濁流由良浜芥ごみの山・山

朝夕の冷えを覚ゆる庭に立ち

コスモス揺れて秋風さやか

空青く稲刈り後に藁の香と

彼岸花咲く野辺の一群

ひらがなで近況送りし故郷の

母の面影偲ぶこの頃

台風一過我が家の庭に満開の

木犀せいら惜しや黄色こがねのジュウタン

平成25年度 宮津市人権標語入賞作品

友達に もらったやさしさ 心の預金 (中学1年生)

ごめんねと 言えるかどうかは 君しだい (小学6年生)

叶えたい 世界のみんなが 笑顔の日 (小学4年生)

行こう、行きましよう

シヤル・ウイ由良Ⅱ石浦

小西 衛

なんの事件もなく由良地区は、月も星も輝き始め、陽は沈み出し、たそがれて暮れてゆきます。平凡に暮らせることが何よりです。すね。

次の日。僕はベッドから起きようとしています。2Fのチェツクのカーテンごしに、ポカポカ陽気の日射が入り込んでいます。まもなくして、僕はいつものカタログ通りの洋服と靴で、自転車にのって由良浜海岸に出掛けてゆきました。海岸までの途中に、まるで愛する女がその海岸にいる気分になって、自転車わがわずかに早足になりましたよ。『生きていくという事は、こんな感じのものサア』と思いましたが、『悪くない』

りの若者がサーフィンを楽しんでいます。しかも波のウネリを怖れもしないで、沖に向かって泳いでいます。僕は大きな声で「オーボーイ(青年)」と叫びました。が、遠すぎて彼に届くはずもなかったのです。そしてこの青年(由良生れ・有本氏)の光景をまぶしく眺めていたら、「昔、僕も青春という海を、明日に向かって泳いだっただよなあー」と、懐かしんでいます。『五七歳！くいしばって生きてゆこう』と、落ち込む事もなく思いましたネ。そしてまた『生きていくという事は、こんな感じのものサア』とも思いましたよ。この感じ『悪くないヨネ』

ーを飲み、いつもの難しい顔で悩み(僕は、明日、楽しい事があると思うから悩むのです)、いつもの販売士(女子)とわずかに喋り、いつもの光景をガラス越しに見ています。スマートフォンを握りしめた女の子が、楽しそうな顔をして立っています。ネ。「ねえ君、そのスマートフォンで君の頭も心も『スマート(頭が良くなる)』になれたかい？」ヤボな質問が浮かんでは消えましたネ。国道では、赤い車は東へ、白い車は西へとすれ違いながら走り去ってゆくだけで、そのずつと遠くを見つめたら水平線が海と空に分かれているだけです。平凡に生きられる事、平凡な光景を見れる事も『悪くない』『悪くないヨネ』だから『生きていくという事は、こんな感じのものサア』と思えました。

コンビニを出てすぐに、脇地区・矢野学氏の『美草』(シバフ風)の横道を自転車にのって、あこがれながら通りかかっています。なぜ？それはネ。スケールは違えども、大好きな『大王わさび農場』にそっくりだからです。だからこの『美草』で、パフォーマンスするならば、ジーンズとシャツを巻くり上げて、靴も靴下も脱いで、ネクタイも外して、さらにです。僕が持っている『世の中の理不尽さや人をうらやむ心』を、僕の胸のズウツと奥に仕舞って、心を規制緩和しながら、この『美草』を笑顔をつくって、歩いてみたい。たとえば、作家・村上春樹さんは、世の中の理不尽さを困難な哲学的な文章で『愛の形の小説』に変えてパフォーマンスを続けています。『天才！』それでは今度は、由良、石浦地区の皆さんの、日頃持っている理不尽さなどを胸のズウツと奥に仕舞って頂きまして、それぞれにパフォーマンスしてください。僕「いいですか？ ヨーイ・ドーン！」僕「パフォーマンス終わりましたか？」僕「できました

由良浜海岸に来ました。ひと

もの席に座り、いつものコーヒ

こがれながら通りかかっています

りましたか？」僕「できました

ヨネ」私達、僕達は『法のモトニ平等』言い変えれば、『みんな同じ人間なんだ』と言う事になつて来ますヨネ。だから『生きているという事は、こんな感じのものサア』という気持ちになります。『悪くない』『悪くない』さてさて、母が生きて来ている横道を恥かしがらずに、自転車に乗って通り過ぎてゆきます。母とはイサカイを避けて、話半分にして相づちを打つています。母は母で平凡に目立たない姿で暮らしています。『生きていくという事は、こんな感じのものサア』と、人間だから仕方ないじゃないですか。『生・老・病・死』だから。

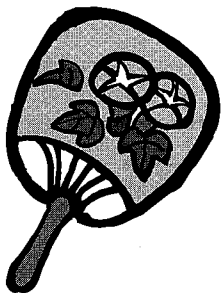
ああっ！ たつた今、映画やテレビ朝日系でやっていて、人気アニメ『クレヨンしんちゃん』そつくりの子ドモとすれ違いました。きつとこの子ドモは、お母さんに「コラー」「コラーヤメナサイ」「ナニヤツテンノ、アナタハ」と叱られっぱなしでしょ。僕「アツハハハ」お母さんに叱られるのも『悪くないヨ』。だつてサア、あなた達の愛情の一〇〇倍の愛情で、接してくれているんだカラ。あなた達もお母さんも『悪くない』

おやおや、この路地のバケツ（ゴミ箱）にパーティーの後だろ。コルクの空ビンが捨ててあります。「いいよ、なあー」けど五七才にもなると朝帰りの付き合いは辛いですね。今の僕に似合うのは、誰かの話を聞く事です。目が悪くなつて来た、腰が痛むとか困つたものです。が、アキラメも大事です。『生きていくという事は、こんな感じのものサア』

旧由良小学校前を走つています。思い出は満ち足りてありませんが、悪ガキだつた事ぐらしか書きません。書きたくないのです。『生きていくという事は、こんな感じのものサア』と思ひました。そして少しの間走つていたら、由良川鉄橋を電車が渡つています。『悪くない』僕はネ、電車がレールを鳴らすたびに旅行にゆきたくなるのです。突然話を交えます。港・石浦連合Ⅱ四部の運動会での優勝、おめでとうございませう。山田忠雄氏が言つてましたネ。『チームワークの勝利』だつたんだらうと。『悪くない』『絶対。悪くない』

石浦に入ろうとしています。が、体力がなくなりました。タクシーにのつて行きますゾ。しかもミニ小説で。『行こう。行きましよう。由良駅前通りから』

僕「ハイ！ タクシー」僕「運転手さん。スミマセンが、その先の安寿足湯を右に曲がつて、さらにその先のハクレイ酒造も右に曲がつてください」運転手「源氏ボタル里山通りで、良いんですネ」運転手「春が来ましたネ。お客さん」僕「ほんとうですネ。しかし一年が経つのが、あつという事です」運転手「野球は見ますか。お客さん」



『京の蘭方医』

新宮涼庭伝（長崎時代）

新宮 涼 輔

待望の長崎に入った涼庭は、十七日に長崎を見てまわった。

はるばる京都から出てきた遊学者にとって、それは胸躍る思いにちがいない。涼庭は長崎をいかにみたか。地勢は、三方が山で、両南が欠けて港口となっており、たこつぼのようである。口の広さは百歩ばかり、港口をはさんで聳える山は天門山と名づける。肥筑二侯が警護の兵およびよそ千人、大砲や武器を陳列して外寇に備えている。港の広さは南北一里、東西十余町、水深く岩なく、小さな湖のようである。風雨といえども一つの礎で泊することができる。中国・オランダの商船、万里の彼方から貨物をもたらす。人間は利益を追うに急であるのは、天下皆然

りである。戸数は一万ばかり、商業によって生活していないものはない。天正・慶長の間佐賀侯の支配に属し、住民に自由に交易させ、シャム・交趾もまた来て貿易した。のち江戸幕府の所有となり、私貿易を禁じ、利益は皆官に納めた。賞罰は、すべて奉行の管轄下であり、村長が九名あって、町年老とよび、百務をあずかり聞いている。

その富強は、大名に比し、一村の権は、皆町年老に帰している。およそ天下の政は、権力が強まると衰え、驕ると傾くもので、時弊の行きつくところ、山崩れ水漲るがごとく、その勢いは防ぐことができない。饒巴長崎のごときは、他に例がなく、長く繁栄を続けるのも、また怪

しむに足らない。涼庭の長崎における最初の師は、吉雄六次郎（のち権之介、号は永保・如淵）で、『西遊日記』では、入門の月日は、この年、文化十年の十月二日、福嶋某の仲介によつたと述べている。涼庭は、はじめ某禅寺の門の傍らの小舎に住み、導引や発胞膏を売って、わずかに衣食の資をえていた。治療もしだいに繁昌したので、吉雄に入門したという。

※注1 吉雄如淵

長崎の大学者、吉雄耕牛の末子。耕牛六十二歳の時の妾腹の子で、六二郎と称した。二兄定之助・献作が蘭外科であったから、彼が家業を継いだ。天保二年（一八三一）五月二十一日、四十七歳で没。

吉雄如淵は、青年時代に破産し、兄献作の家に寄食していた。その学力においては、涼庭の師として十分であったが、如淵の一つの悪習は、遊蕩であった。

如淵はしばしば丸山遊廓に遊

んで、教授してくれないので、涼庭は、師のありかをさがし、愛妓を買って師を遊ばせ、その面前で横文字を徹宵で勉強したという。

（涼庭の医術活動）

①旅館の主人の子 幾治が翻胃（食物のどを通らず嘔吐する病）を患い、昼夜腹痛で嘔吐し、呻吟する声は四方にとどろいた。

涼庭は、治療してやろうとして、腕のなるのをおさえがたかったが、そしらぬ顔をしていた。すると、如淵の門人四名が、涼庭に『傷寒論』を講じてほしいと頼みに来たが、修業で暇がないと辞退した。四人の者は、たつてと頼むので、その請をいれ、毎日朝八時から夜八時まで講義した。旅館の主人は、涼庭が医学研究生であるのを知って、切に治療を求めた。そこで涼庭は、吐薬ならびに酸剤を用い、減食を厳守させ、一カ月ばかりで全治せしめた。

②旅館の隣りに五坐屋某という

のがあり、その女は若くして寡婦となつたが咳嗽寒熱（せきのでる風邪）を患つて六、七十日、

瘦せて骨ばつていたそう。医師はみな労瘵（疲労の病）であろうとし、涼庭に治療を請うた。

涼庭がみると皮膚全面に疥癬の痕があるので、癬毒が内攻したのであることを知り、毎日野羊の乳を椀に三杯飲ませ、併せて

癩癬の薬を用いたところ、一月ならずして癩大いに発し、ついに死をまぬがれた。その治術

をあらわしたので、石村儀兵衛の別邸で読書していたが、患者

がつぎつぎと集まり、先來者が退かぬうちに次の患者が来るというありさまで、つい七ヶ月を

すごしてしまつた。文化十一年正月より七日の間、治療した患者は、千四百余人、銀十一貫五

百日と錢百六十緡を得たという。七月十七日ひそかに長崎を發して竹尾温泉にいった。八月二十

三日には、竹尾を出發し、大村に一泊、二十四日船で大村を出

發、時津につき夜に入つて献作の家に行った。

（涼庭の勉学）

献作の家の楼上には、如淵がいたので、同居を請うてオランダ語を学んだ。ここで、通詞の

石橋助十郎が所蔵するプレレンキの外科書を手に入れ、昼夜熱心に研究した。その時の所感は、

はじめは、ブーツとしてつかみ所がなかつたが、ようやくにして

前途に光明を見つけうるばかりなつたという。文化十二年の正月も献作の楼上で迎えた。足

土を踏まざること二百五十日と記しているから、部屋にとじこ

もつて、勉強これ努めたのである。如淵の一族吉雄忠次郎永民

にも師事した。この年、涼庭はまた、天文学者末次独笑について、算数を学んだ。

※注2 吉雄永民

吉雄耕牛の弟次郎の孫で文政五年（一八二三）九月、馬場佐十郎の充員として江戸の天文台に天文

方となり、高橋作左衛門とシーボルトとの間を周旋したかどで、幕府より咎めをうけ、米沢の上杉佐渡守のもとに永牢となり、天保四年（一八三三）二月二十九日に没した。

※注3 末次独笑

名は忠介。著名は天文学者である。

涼庭は、独笑の家は、代々街長（乙名）で博聞強記、もつとも星

学を得意としたが、性格が剛直で人を皮肉つたりしたので不世出の

人傑であつたにもかかわらず、識る人が少ない。

涼庭の長崎時代の師は、吉雄

如淵・同永民・末次独笑の三人である。同書によせた吉雄永保

（如淵）の文化十二年の序文。

「丹後の処土新宮涼庭あつく西洋医方を好む。其志汎く採りて

普く之を試むるに在り。乃ち長崎に來り、余に従つて蘭語を学

ぶ者三年なり。学既になる。近くゴルトル著す所の窮理外科則

十余篇を翻し、今將に第七篇を

以て上梓せんとす。余に題言を徵す。云々」

長崎今籠町の菊谷芳満（藤太）の文化十三年三月に書いたもので、はじめに芳満の家が世々蘭館と關係し、蘭方の精確を知る

ものの、見聞の限りでは、隔靴搔痒の感をまぬがれず、ここに涼庭について学んだと言ひ、涼庭が朝夕之を講じて生徒を教え

たという。

（蘭人直伝）

いよいよ蘭館出入を許された涼庭は、これからオランダ医師

の治療を見、またその指導をうけることになつた。『西遊日記』

文化十三年については、次のような例がある。青貝屋某は、漆

器を売つて蘭館に出入していたものであるが、咳嗽寒熱、諸薬

ことごとく驗しがない。時はいたずらに過ぎ、しかも日に二三

勺は血を吐く。医者はおそらく風勞で不治の病症であろうとした。

※注4

フェールケは一診して、血八十銭を放出し、和胸湯に乳汁を加えたものを日に一升ばかり飲ませ、石灰水一ぱいを併用せしめた。また亜麻仁油レンオーリ五滴を用い、諸症ようやく退いた。再び血六十四銭を用放ち、前記の療法を七日間続け、病勢大いに減じた。また、血五十銭を放ち、一ヶ月たらずして全治した。涼庭は自ら治療し、またフェールケの治療を学び、技術も大いに進んだ。

注 ゴーゼマン・チルク・ホゼマンのことで、商館の簿記役、のちに荷倉役をした。フェートン号事件のとき、英船フェートン号が蘭船を装って長崎へ入港した際に、助手スヒンメルとともに委員として派遣させられ、英船に捕えられた人物である。

※注4 フェールケ

オランダの人。長崎在留九年。文化十一年六月十二日に没したとある。

これらが、後年大いに役立つたことは、いうまでもないが、同時に、治療・施薬が、風土や人種に大きな差異のあることも、発見したのである。たとえば涼庭は、その著『泰西疫論』で、下剤の薬が邦人とオランダ人とは、大いに異なることをあげ、「是余が多年蘭人を療し験したるところなり」と述べているがごとくで、他の著述にもしばしば述べている。『鬼国先生言行録』には涼庭の治療費について述べている。それは、ドウーフとフェールケが日本とオランダと比較すると、日本の治療費が非常に安いとし、涼庭が一診すれば銀五銭、薬価一服は、銀三銭としたので涼庭も経済的にかなりの余裕ができたというのである。

注 銭とは、目方の単位、一銭は約

三・七グラム

(疫病と治療)

長崎には、文化十三年ころか

ら火災があり、十四、五年ころに、疫病が流行した。ナポレオン戦後、久々に蘭船が入港し、この年ドウーフは帰国、バティールが蘭館医として到着したとある。ドウーフは文化十四年十一月三日(西暦十二月十日)に日本を去っており、後任のブロムホフは、この年の七月三日に来朝している。とにかく、疫病は文化十四年四月から文化十五年(文政元年)にかけて、長崎に流行した。その病状は、二三日の間うわ言をいうので、医者は何の熱かわからず、温疫論・傷寒論で発汗または下剤蒺胡附子などを主としていたが、あまり効果はなかった。涼庭はスウイントンの『妄語熱篇』などを熟読し、其の法をもつて処方したが、失敗もまた少なくなかった。文化十四年の秋、吉雄永民と涼庭とはバティールをたずねた。バティールは、オランダの医学の大家プレんキの門下で、内科を得意としていた。涼庭は、バティール

に分離術について質問し、ついでに流行の疫病のことについて話すと、バティールは手をうって、これこそ神経熱であると断じ、自分がナポレオン戦争でモスコに遠征し、モスコが火を発したのちにも、かかる熱が流行したと話し、吉雄忠次郎を通じてヒュッヘランドの神経疫論や、コンスブリュグの治療書をわたした。この翻訳が、のちの『神経疫論』と『腐敗疫論』である。(涼庭の師事したオランダ人医師) 涼庭が長崎で師事したオランダ医師について述べておくと、フェールケはやや不確実であるが、バティールは確実である。ところが、『駆豎齋家訓』によれば、このほかに、ハーゲン・スロイトル・アンスリー等に学んで鴻益を得たといひ、他の著書にはブレイトホフなる人物も出てくる。ハーゲンは、文化十四年に日本に渡来しており、文化十五年(文政元年)のカピタンの江戸参府に随行している。スロイ

テルについては、『泰西疫論』に、スロイテルが涼庭に、西洋で柑橘類が得難いと述べた。

第三節 (帰郷)

(長崎発)

涼庭が長崎を発して帰郷の途についたのは、文政元年であるが、その月日は明らかでない。(七月十日以降と考えられる。)

涼庭の帰郷について記載したものは、『鬼国先生言行録』よりほかにない。

まず熊本に行ったところで、肥後藩の藩士のために西洋砲術書を講じ、藩主がこれを聞いて、二百石で召抱えようとしたのを辞退した。ついで、広島の恵美三白に会って自己の発明にかかると根根吐酒石の機能を説き、三白を悦ばし、しばらく広島に滞在して、弟子もかなりふえたという。

(帰郷・迎妻)

涼庭が帰郷した月日は明らかでない。涼庭は、有馬涼築の娘

でかつ従姉妹になる春枝を妻とした。春枝の母は涼築の後妻で、田辺藩士山中氏の娘であった。

涼庭は、春枝とは有馬家に学僕をしていたころから親しんでいたと思われる。この有馬家は、『但泉紀行』によると、有馬氏八

世の祖玄哲法印が医をはじめ、天正年中京師に移り、玄哲・涼筑・涼及と三代が法印で御医となり、涼及の名は海内に知られ、幕府の聘に應じ、また後水尾帝の恩遇ことに厚く、高麗製の神農の塑像および書、琅菜鎖、白金葉秤を賜った。ところが涼及は、違勅の罪で岡崎村に住み、兄涼遊は藩に仕え、弟は紀伊候に仕えた。兄の家は代々二百石、涼庭の父の兄童寿斎義休は、新宮家より出でて有馬家をついだこと。

第三章

(京都における涼庭)

長崎遊学から帰って故郷で妻を迎えた涼庭は、翌文政二年の

春、京都へ出て開業した。長崎において苦学数年、蘭医直伝の涼庭の名声は、まもなく京都の蘭医家中屈指のものとなった。当時京都における蘭学者には、直接医は業としなかったが、医学にはそれほど名声はえなかったが、稲村三伯の後をついで藤

林普山同門で、医にすぐれた小森玄良、京阪における蘭医学の祖小石元瑞があった。涼庭は後進ながら、これらの名医に伍して門戸を張り、相扶けて京都蘭学界の黄金時代を築いた。

参考文献：山本四郎著「新宮涼庭傳」

ミネルヴァ書房



。涼庭の長崎時代、猛勉強により文化十二年（一八二二）の
 外科書と解剖書を訳して帰る。又長崎出島にありけ
 る蘭館長ドゥーヴおよび蘭医ニルケとの間に強
 い信頼感による交遊は続いた。

又優れた語学力
 を生かして新しい
 医学を直接原
 書から学び、
 後世のためまぬ
 翻訳活動、医療
 活動の基礎を
 身につけた。

新島元彦は文化十年
 九月十六日（一八三三）に
 長崎入りし、同年十月二日
 に吉原権え助に入門
 している。エンネリ・スライ
 トルは陽暦十一月二十五日
 に出帆したので、涼庭が
 両者に直接会うことは
 出来た時期は、一月尾と推定
 している。



一八二八年五年間の長崎遊学から
 帰郷し妻を迎えた。（享三二歳）
 涼庭は文政二年（一八一九）の春
 京都で蘭方医として開業した。

長崎において苦学数年蘭医
 直伝の涼庭は、たちまち
 蘭医家中屈指のものとな
 った。

三年後の春
 その日、長崎の
 旅を終え、
 京へもどり……



絵と文：新宮涼輔

北前船と磯田四郎左衛門

中西 衛

私の家は新宅しんたくと呼ばれている。

中西孫兵衛と磯田四郎左衛門が庄屋であったが、その四郎左衛門の弟で磯田平兵衛が分家し名字帯刀を許されて新宅という屋号をもらった。二代目平兵衛(幼名茂三郎)が若くしてなくなり(明治四年六月十六日)長男の徳藏(明治三年十一月二十九日生)が幼児であったため長女の志げ(安政六年八月三日生)の夫、中西猪之助(安政三年九月十四日生)が養子に入り新宅三代目となった。

そののち平治郎、茂、衛となり私が六代目である。

真下八雄先生が丹後の国の回船業(三省堂、日本民衆の歴史)により磯田家について次のように記述されている。

由良村の磯田家は田畑持高が

をおこなった。

石見浜田の回船問屋の「諸国御客船帳」によれば、浜田外ノ浦の回船問屋清水屋のもとに入港した八九〇六艘(一七四四〜一九〇二)のうち丹後の船が四三二艘、そのうち由良の船が九三艘と一番多く、磯田四郎左衛門の船が十六艘と記載されている。

磯田家は文政十一年(一八二八年)七百石積みの船を建造したが、二十一年後の嘉永二年(一八四九年)にこれを作りかえている。

この経費は船体だけで金五四七両余りを要し、そのほかに綱帆、碇、その諸道具代として金二五八両と永(金)九〇匁五分三厘を支出している。なお二年前にも一艘つくりかえているが、いずれにも熊野郡湊の船大工に任せている。

船商による収益として、四郎左衛門持船磯部丸(七百石積み十一人乗り)は元治元年(一

八六四年)に利益金八二七両余、諸雑費金三八八両余で差引純利益四三九両余を得ている。

丹後回船の中心的な活動舞台は西回り航路上であったが、大型船の一部には、さらに大坂から南海路をへて江戸へ回航するものもあつた。その航路は北陸山陰地方天領の年貢米(城米)輸送船が往来するものであるが、諸藩も物資の江戸直送に利用した。

田辺藩は文政十二年(一八二九年)の江戸藩邸類焼のとき、その再建に国元から木材を運搬することにしたが、これに用いられたのは由良村の米屋四郎左衛門手船「磯部丸」(七百石積み)で、米屋は運賃と同船の積高一石につき銀十二匁五分の割で、銀八貫七五〇匁を受取っている。また天保の大飢饉にさいし、福知山藩では、幕命により備荒用貯穀を天保五年(一八三四年)と(一八三七年)の両度江戸へ回送したが、この御用にも米屋

の持船があたった。回米にかんする一八三三年の同藩聞き合せに米屋四郎左衛門は次のように返答している。

運賃は銀九貫二四〇匁を要請、その支給は船積み時と江戸着船時に分けて、それぞれ半額づつされるようお願いしている。

回米は川舟で由良川を下り、栗田で大船に積み込んだ。栗田は入海になっていて波静かなため、由良船の係留や貨物の積み替え場所となっていた。

「御聞き合せの覚（抜粋）」

一、此の度 福知山御城米 御公儀え御回米につき、私船御雇につき御尋ねの趣左に申し上げ候。

一、江戸表え着岸、小船にて御蔵入れ相なり候はば、石に拾五匁づつ下さるべく候。浜渡し水揚げに候はば、石四匁づつ下さるべく候事。但し右の御定め爰元にて福知山相場にて半銀御渡し、江戸着船の上同所相場にて残りは船頭え御渡し下さるべく候事。尤も請合

証文の内え書上げ申すべく候。千七百俵積みと申し上げ候えども、御公儀様御大切の御回米につき右の内二十石御減らし、千六百五拾俵積みに成し下さるべく候。石積み六百六拾積みと御定め下さるべく候。但し外に御上乗り式人、船頭ども飯米は別に積込み申すべく候。

一、当所川船にて三河より栗田浜え着船候はば、米請取り大船え積込み候事。但し雇舟差し登り候儀、其の 御役所にて何の御構い御座なく候事。

一、四斗俵四斗吉升に御計り吉俵に御直し下さるべく候。右込みにて目溢れ惣体の欠け減り并じ申すべく候。但し貫目は元目より三百目づつ御用捨下さるべく候事。

一、船御雇極り候はば、船御見分の儀此方より御注進申し上げ御見分受け候事。尤も此の度も一応御見分成立下さるべく候。正月二十五日迄は御究め御座なく候ても手附銀船うわかし申さず候。夫れ過ぎ候はば前借りとして、石貫匁御渡し下さるべく候。夫れより二月五日

過ぎ御回米御止めに相成り候はば、前借り御流し下さるべく候事。

一、御城米の儀故 御公儀様御目印日の丸御職等御渡し下さるべく候事。

右の通り相違御座なく候。尤も是れ迄御回米相勤め候例もこれ有るべく仰せられ候えども、御回米の儀は近頃御座なく、先四郎左衛門代には御回米も相勤め候儀もこれ有り候えども、年久しく相成り候事ゆえ一同例も相分らず候えども、今度の儀、其の 御役所には御例も度々御座候儀如何様とも御差図次第御回

米の儀御請合い申し上げるべく候間、仰せ付けられ下さるべく候。以上。

天保四癸巳年十二月 日

丹後国加佐郡由良村

米屋四郎左衛門

福知山

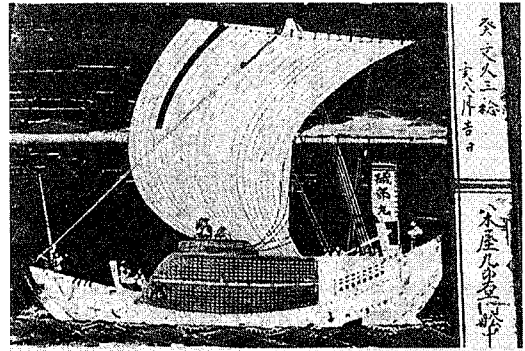
御役人中様

㊦

丹後の大船主に成長した磯田家は諸藩から江戸回航などの用命が下るようになったり、田辺藩から御用金上納を仰せつけられたりするようになった。



磯田平兵衛



船絵馬「磯部丸」(1863年、加佐郡由良村の金比羅神社へ、同村磯田四郎左衛門〔末尾〕手船「磯部丸」の船中が奉納した船絵馬)

さらに明治維新時には久美浜
 県から三丹(丹後、丹波、但馬)
 の商法会所御用係に任命された。
 金比羅神社に磯田四郎左衛門
 の手船「磯部丸」の船絵馬が奉
 納されており、磯田平兵衛の手
 船「永徳丸」の板図(236cm×68
 cm)も奉納されて、現在、市役
 所と府立丹後郷土資料館に保管
 されている。
 又大川神社と奈具神社に、磯
 田四郎左衛門(右)と磯田平兵
 衛(左)が兄弟で石燈籠を奉納
 している。

特殊詐欺の被害防止について

由良駐在所 小林 敬 互

日頃は当駐在所の各種活動に
 ご理解とご協力を賜り、誠にあ
 りがとうございます。

平成二十五年四月に着任以来、
 地域の皆様から温かい励ましと、
 貴重なご意見を賜りながら、早
 や一年が過ぎました。

円滑な警察活動が出来ますの
 も、ひとえに、皆様方のお陰と
 大変感謝している次第です。

また由良地区は海、山、川と
 自然に囲まれ、山庄太夫伝説や
 北前船交易等の歴史を感じる風
 土であり、温厚な土地柄でもあ
 りますので、夫婦とも明るく和
 やかに暮らしております。



さてこの度、由良公民館だよ
 りに寄稿させて頂く機会を頂戴
 しましたので、当駐在所から、
振り込め詐欺等の

特殊詐欺の被害防止

についてご説明致します。

オレオレ詐欺をはじめとする
 振り込め詐欺や金融商品等の取
 引名目の詐欺の手法を、「特殊詐
 欺」と総称していますが、平成
 二十五年中における京都府下で
 の特殊詐欺の認知件数は一六九
 件で、前年の八一件からほぼ倍
 増しています。

その被害者の約七割は六五歳
 以上の高齢者です。

また、被害総額については約
 六億六七〇六万円で、前年から
 約二億円五九七四万円も増加し
 ています。

その内、宮津警察署管内の認

知件数は四件、被害総額は約一
 六三万円です。

さらに、今年の一月から三月
 までの京都府下の認知件数は三
 九件で、被害総額は約三億二四
 一一万円と、いずれも前年対比
 を上回り、宮津警察署管内でも、
 一件約一六六万円の被害が発生
 しています。

警察の総力を挙げた取り組み
 を行っているところですが、こ
 のように特殊詐欺による被害は
 未だ後を絶ちません。

特殊詐欺の犯行手口は、年々
 複雑巧妙かつ悪質化しており、
 決して他人事と思わず警戒する
 ことが必要です。

この特殊詐欺の手口について
 詳しく説明させて頂きます。

まずは振り込め詐欺には、
【オレオレ詐欺】

①警察官、銀行協会や官公庁の
 職員等を騙り被害者宅を訪問
 し、キャッシュカード等を騙
 し取る手口

②電話を利用して親族、警察官、

弁護士等を装い、示談金等を名目に、現金を口座に振り込ませるなどの方法により騙し取る手口

【架空請求詐欺】

郵便等を利用して不特定多数の者に対し、架空の事実を口実とした料金を請求する文章等を送付するなどして、現金を口座に振り込ませるなどの方法により騙し取る手口

【融資保証金詐欺】

実際には融資しないにも関わらず、融資する旨の文章等を送付するなどして、保証金等を名目に現金を口座に振り込ませるなどの方法により騙し取る手口

【還付金等詐欺】

税務署や社会保険事務所等を騙り、税金の還付等に必要手続きを装って被害者にATMを操作させ、口座間送金により現金を騙し取る手口の四類型があります。

次に、振り込み詐欺以外の特殊詐欺の代表的類型として、

【金融商品等取引名目の詐欺】

実際には対価ほどの価値がない証券、外国通貨又は全く架空の有価証券等について、電話やダイレクトメール等により虚偽の情報を提供し、購入すれば利益が得られるものと誤信させ、購入を申し込んだ被害者に有価証券等を交付するなどして、その購入名目で現金を口座に振り込ませるなどして騙し取る手口

【ギャンブル必勝情報提供名目の詐欺】

不特定多数の者が購読する雑誌に「パチンコ打ち子募集」等と掲載したり、不特定多数の者に対して同内容のメールを送信するなどとし、これに応じて会員登録等を申し込んだ被害者に対して、パチンコ戦略法等の虚偽の情報を提供するなどとした上で、会員登録料や情報料等の名目で

現金を口座に振り込ませて騙し取る手口

【異性と性交際あっせん名目の詐欺】

不特定多数の者が購買する雑誌に「女性紹介」等と掲載したり、不特定多数の者に対して同内容のメールを送信するなどし、女性の紹介等を求めてきた者に対して、一度だけ女性と会わせたり、女性に関する虚偽の情報を提供したりした後、会員登録料金や保証金等の名目で現金を口座に振り込ませるなどして騙し取る手口

などがあります。

昨年十一月に宮津警察署管内で、警察官等を騙って「あなたの口座が振り込み詐欺に不正に使用されたことが判ったので、口座を止める必要から、キャッシュカードを預かりたい。」という内容の、オレオレ詐欺の電話が相次ぎました。

その内の一件では、実際に被害者の高齢者宅へキャッシュカードを騙し取りに来た犯人を現行犯逮捕しています。

これは被害者からの警察への情報提供が功を奏して逮捕できた事例です。

もしかすると、次はあなたのところに電話がかかってきたり、パンフレットや葉書などが送られてくるかも知れません。

被害者の方々のお多くは、「まさか自分が騙されるとは思っていなかった。」と話されます。

それだけ詐欺グループの手口が、年々巧妙かつ悪質化している証拠です。

由良地区の皆様も、決して特殊詐欺の被害を他人事だと思わず、警戒心を高めて頂きたいと思えます。

もし、ほんの少しでも「怪しい、おかしい」と思う電話等があった場合は、慌てず落ち着いて、自分一人で判断せず、すぐに家族や友人知人などの周りの

方々や警察に相談して下さい。
 駐在所では特殊詐欺に限らず、
 どんな些細なことでもご相談を
 承っておりますので、是非お気
 軽にお話し下さい。

なお、駐在所に不在の場合は
 宮津警察署に連絡して頂いても
 結構ですし、緊急の事件事故の
 場合は、一一〇番通報をお願い
 致します。

なお、本年五月一日に「京都
 府遊泳者及びプレジャーボート
 の事故の防止等に関する条例」、
 いわゆる京都府水上安全条例が
 施行されましたので、ご紹介致
 します。

海水浴場におけるマナー向上
 と事故防止を図り、誰もが海で
 安心して楽しめるようにするた
 めに制定された条例です。

特に、海水浴場（遊泳区域）
 に入ったり、近づいたりする悪
 質なプレジャーボートを罰則規
 定で取り締まる目的があります。
 由良海水浴場についても、地
 域の皆様や海水浴客が安全な環

境で安心して遊ぶことが出来る
 よう、地元をはじめ各関係機関
 と連携しつつ、条例に基づいた
 指導と取り締まりに努めます。
 最後となりましたが、今後と



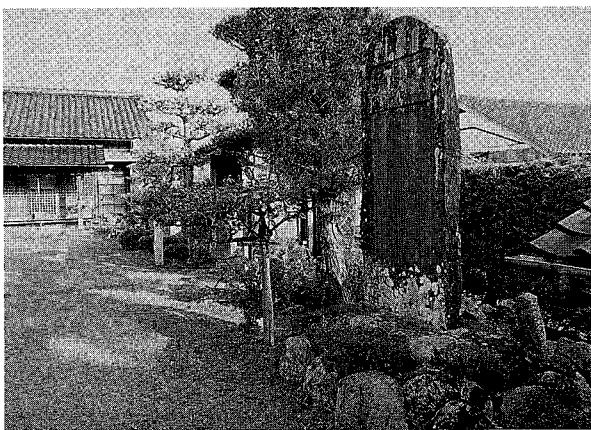
如意寺境内に「重女の碑」が
 建っている。

文政の昔（江戸時代）由良村
 に重女と呼んだ賢い女の人がい
 た。夫の平吉は水主（船乗り）
 のかたわら、農業をしていたが
 その平吉が大病になり歩くこと
 も出来ず、また義父、義母とも
 病気で寝たきりであった。
 重女は、三人を看病しながら
 一心に働き、義父と夫には好き
 な酒を毎日与え、薬を求め、お
 金がない時は自分の髪の毛まで
 切って売り、そのお金を酒代や

も由良地区の安全と安心を守る
 ため、地道に活動を続けて参り
 ますので、どうか変わらぬご支
 援を賜りますよう、お願い申し
 上げます。

葉代に当てていた。

田んぼへ行く時は夫を背負っ
 て行き、田のあぜに座らせて慰
 めていた。その孝行が時の田辺
 藩主に認められ褒美が与えられ
 たのである。
 （飯澤）



編集後記

2014（H26）6月
 目がかゆい、鼻水が出る、ク
 シヤミが止まらないなどとうとう
 おしい季節がやると過ぎました。
 今年の花粉飛散量は昨年比
 べ少ない「裏年」のようでした。
 昭和四十一年から公民館行事
 として始まった由良ヶ嶽登山は
 今年で四十九回目を迎えました。
 四月二十九日は雨天のため五
 月三日に延期、一三七名の登山
 者が新緑の山麓を満喫すること
 ができました。
 大型連休中、山での遭難が各
 地で発生しています。無理な計
 画や、装備が十分でなかったの
 が原因とされています。由良ヶ
 嶽は640mと決して高い山で
 はありませんが、東西山頂から
 の眺望は素晴らしく、中高年の
 登山ブームの中、遠方からたく
 さんの登山者が挑戦されていま
 す。熊・イノシシの獣の生息し
 ている山、鈴やラジオなどを附
 けながら、今後事故が無く、
 大勢の登山者が愛する山であっ
 てほしいものです。
 （枝川）